

保護者の皆様

吹田市立西山田小学校

校長 鬼頭 孝雄

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年を対象とした調査です。今年度は、国語・算数の2教科のみの実施であり、測定された結果は学校における教育活動の一つの側面、学力の一部を示すものと考えております。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果

#### 国語《概要》

⇒全国の平均正答率を、上回っている。

#### ☆各領域における成果と課題

##### 話すこと・聞くこと

- ・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」については、全国値とほぼ同じで、十分な結果ではなかった。
- ・「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること」については、全国値を上回っている。

##### 書くこと

- ・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」については、全国値をやや上回っているが、十分な結果ではなかった。

## 読むこと

- ・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」については、全国値をやや下回り、課題がある。
- ・「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」については全国値を上回っている。
- ・「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること」については全国値を上回っている。

### 《国語科における成果と今後の指導の改善点について》

説明的文章やスピーチについて、話し手が伝えたいことの内容の中心を捉える力は全国値を大きく上回っている。また、図表やグラフを用いて情報を相手に分かりやすく伝えるための基礎的な力は身につけている。しかし、目的や条件に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しまとめることについては課題が見られた。さらに、言葉の使い方や特徴に関する理解について、今まで習った漢字の中で、意味によって使い分けられる同じ読み方の漢字の定着に課題が見られた。

上記のことから、授業では理由や根拠を明確にして自分の考えをもち、それを文章で表現する活動や、段落ごとに内容の中心となる語や文を読み取り、全体の構成や内容を捉える活動を積極的に取り入れていく。さらに、新出漢字だけでなく、既習漢字の復習に力を入れていく。また、国語科の学習をその時間・その単元・その教科の中だけのものにせず、次の学習や他教科の学習、さらには、日常生活の問題を解決するために、国語科活用することができるよう、教科横断的に学習を進めていく。

## 算数《概要》

⇒全国の平均正答率を、上回っている。

### ☆各領域における成果と課題

#### 数と計算

- ・「一の位が0の二つの2位数について乗法の計算をする」「( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること」については、全国値を上回っている。
- ・「示された日常生活の場面を解釈し、少数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること」については、全国値を上回っているが、十分とは言えない。
- ・「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること」については、全国値をやや上回っているが、十分とは言えない。

## 図形

- ・「台形や正三角形の意味や性質について理解すること」「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」については、全国値を上回っているが、十分とは言えない。
- ・「正方形の意味や性質について理解すること」については、全国値を上回っている。

## 変化と関係

- ・「伴って変わる二つの量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること」については全国値を上回り、できている。
- ・「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いること」については、全国値をやや下回り、課題がある。
- ・「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係にあることを説明するために、表の中の適切な数の組を用いること」「百分率で表された割合について理解していること」については、全国値をやや上回っているが、十分とは言えない。

## データの活用

- ・「以上の意味を理解し示された表から必要な数を読み取ること」については全国値を上回り、できている。
- ・「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述すること」については、全国値をやや上回っているが、十分とは言えない。

### 《算数科における成果と今後の指導の改善点について》

基本的な四則計算や図形・数学的な知識を問う問題については、概ねできている。一方で、数量の関係を目的や条件に合わせて説明する力に課題が見られた。特に、図形の性質を基に問題に明記されていない数量を読み取り考察する力については大きな課題が見られた。全体を通して、記述式の応用問題は、全国値を上回ったものの正答率が低く満足できるものではなかった。

上記のことから、授業では自分の考えを目的や条件に合わせて説明する力をつけるため、文章の型を例示したり、友だちの説明を自分の言葉でもう一度表現させたりすることを授業の中で積極的に取り入れていく。さらに、文章の中から読み取れる数量を、自分がわかるように明確に書き表すことを習慣化させていく。

また、目的や条件に合わせて説明する力については、国語科と共通して見られる課題であるため、身に着けた力を相互に活用することができるよう、教科横断的に学習を進めていく。

## 2. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

### (1) 自分自身のことについて

- ・「自分には、よいところがあると思いますか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」という設問に対して肯定的な回答は全国値を上回っている。
- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」という設問に対して肯定的な回答は全国値をやや上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」という設問に対して肯定的な回答は全国値をやや下回っている。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」という設問に対して肯定的な回答は全国値を下回っている。

### (2) 家庭生活について

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の設問に対して肯定的な回答は全国値を上回っている。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という設問に対して「1時間以上」の回答は全国値を上回っている。しかし、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の設問に対して「30分以上」の回答は全国値をやや下回っている。

### (3) 学校生活・学習について

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という設問に対して肯定的な回答は全国値をやや下回っている。しかし、「友達関係に満足していますか。」という設問に対して肯定的な回答は全国値をやや上回っている。
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」という設問に対して「30分以上」の回答は全国値を上回っている。また、「読書は好きですか。」という設問に対して肯定的な回答は全国値を上回っている。
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という設問に対する肯定的な回答は全国値を下回っている。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」という設問に対する肯定的な回答は全値を上回っている。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」という設問に対する肯定的な回答は全国値を上回っている。

- ・「国語の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は8割程度である。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対する肯定的な回答は9割程度である。
- ・「算数の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は6割程度である。また、「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対する肯定的な回答は8割程度である。

### 3. 今後の取り組み

本校では、学習面においては各教科で基礎学力の定着をめざすとともに、習熟度別指導を充実させ、子どもたちが主体的に学習でき、友達と学び合う良さを実感できるよう授業改善をさらに進めていきます。また、家庭学習のあり方については、校内で共通理解を図りながら、学年の発達段階に応じた自学自習力の育成に努めてまいります。また、児童が身に付けるべき資質・能力を育むための効果的なICTの活用の在り方を考え、児童がコンピュータ等の正しい使い方についても考えられるよう、デジタル・シティズンシップ教育にも引き続き取り組んでまいります。

生活面においては、小中連携を図り、9年間を見通した規範意識の醸成に努めます。様々な教育活動を通して、それぞれの良さが発揮できるような役割や場を設けることにより、責任感を育み、自己肯定感・自己有用感をさらに高めていきます。

今後とも、個々の児童に応じた学力の向上と基本的な生活習慣の確立を目指し、ご家庭と連携しながら取り組みを進めてまいります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。